

第66回卒業式

前夜の嵐もおさまり、うららかな春の光の中での卒業式となりました。

卒業証書授与では、6年生22名が堂々と胸を張り、卒業証書を受け取りました。



『お祝いの言葉 お別れの言葉』では、卒業生が小学校生活6年間の思い出、在校生へのバトンタッチ、これまでの感謝の気持ち、そして未来への決意を、歌を交えながら伝えました。それに対して在校生が、お祝いの言葉や歌で応えました。



式が終了してから、最後の学級活動を行い、慣れ親しんだ教室に別れを告げました。そして、在校生が作る花のアーチの中を、保護者、来賓、職員に祝福されながら通り抜け、巣立っていきました。

式 辞

うららかな春の日差しを浴びて、桜のつぼみも日ごとにふくらんでまいりました。この晴れやかな日に、十四山東部小学校 第66回卒業生として、巣立っていく22名のみなさん、ご卒業おめでとうございます。心からお祝いいたします。

．．． 中 略 ．．．

ご参列のご家族の皆様、お子様のご卒業、誠にありがとうございます。お子様の誕生から今日まで、健康、生活習慣、学習などなど、細かい配慮をされながら、本日を迎えられました。それらの一つ一つを振り返るにつけて、感慨ひとしおのものがおありのことと存じます。重ねてお祝いを申し上げます。おめでとうございます。

さて、卒業生のみなさん、卒業に際してみなさんに次の言葉を贈りたいと思います。それは、『ありがとう』です。私がみなさんと初めて会ったのは、入学

式の準備でした。入学してくる新一年生のために一生懸命会場作りをしている様子を頼もしくまた感心して見ていました。その後も、通学団やふれあい班でいつも下の学年のことを考えながら取り組んでいました。また、運動会などの行事では、リーダーとして、力一杯活動して全校を引っ張ってくれました。このすばらしい十四山東部小学校を作り上げてくれたのはみなさんです。本当にありがとう。

そして、この『ありがとう』は、みなさんからお父さん、お母さんにも贈ってもらいたいと思います。こうして立派に成長し、卒業式を迎えることができたのもお父さん、お母さんに見守り、手助けしてもらったからです。これからも、いつも感謝の気持ちを持ち続けて、進んでいってください。

最後に、みなさんの晴れの門出にあたって、次の言葉をはなむけにします。

それは『君たちには、挑戦する権利と責任がある』というものです。これは、アメリカの大学の中でも卒業するのが一番難しいと言われているハーバード大学の有名な教授、ジョゼフ・ラスター教授が卒業前の学生に贈った言葉です。

皆さんには、これから新しい生活が待っています。中学校の新しい学習、部活動など、これまでとは違うことばかりです。そういった新しいことに挑戦する権利が与えられました。それとともに、がんばって取り組む責任ももっているのです。失敗を恐れることはありません。挑戦に失敗はつきものです。大切なことは挑戦することです。挑戦する権利と責任をぜひ生かしてください。

みなさんが、十四山東部小学校で学んだことを誇りにして、勇気を持って一歩ずつ前へ進んでいってくださることを期待しています。みなさんの未来に幸多かれと、心から祈りながら式辞といたします。

